学校教育目標
・創造する生徒
・心豊かな生徒
・鍛える生徒

藤花だより

平成２８年度２月号
平成２９年２月１日
さいたま市立大宮西中学校
TEL 048(624)4339
http://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp

「鬼は外、福は内」

校長　　佐藤　和男

大寒が過ぎ、今が一年中で一番寒い時期です。今年は九州や山陰地方をはじめとして大雪のニュースに大変驚かされました。幸いにして、さいたま市にはたくさん積もった子どもたちが危険になるような降雪がなく、とても有難い限りです。

そんな中、２年生は１月２４日～２６日まで福島県の南会津町・舘岩での「自然教室」に行ってきました。１日目、２日目は雪が激しく降りあいにくの天候でしたが、３日目は素晴らしい晴天となり、大変充実したスキー実習をすることができました。実行委員や班長を中心に取り組んだ、２泊３日のある自然の家の職員の方からも、２年生のメリハリのついた行動に対して、お褒めの言葉をいただきました。これらの活動を通して大きく成長し、４月には最上級生として学校の顔となる２年生の今後の活躍がとても楽しみです。

そして今日からはいよいよ２月。３日（金）は節分です。旧暦では立春の頃が元日となり、いわばお正月だったわけです。「節分」は大晦日にあたるということで、立春の前の日を節目の日＝「節分」と指すようになりました。よりよい新年を迎えるために、幸せを祈る一方で、色々な災難をもたらす鬼を追い払うために、節分には「鬼は外、福は内」と言って豆をまいてきました。ちなみに、金峯山寺（奈良県吉野町）は「福は内、鬼も内」、大原神社（京都府福知山市三和町）は「鬼は内、福は外」、さらに鬼を祀る鬼鎮神社（埼玉県嵐山町）は「福は内、鬼は内、悪魔は外」という掛け声で豆をまいているそうです。我が家も毎年豆まきを行い、自分の年の数だけ豆を食べて１年間の無病息災を祈ります。

このような日本特有の伝統文化や習慣を大切にしながら、子どもたちには自国（日本）を愛する心や幅広い国際感覚を身に付け、他国を尊重する心などを育ませることも家庭・地域・学校の努めの一つではないかと考えます。

さて、またまた、私の好きな大相撲の話題です。ご存知のように、先日の平成２９年初場所において大関の稀勢の里が優勝し、１９年ぶりとなる日本出身力士の横綱が誕生しました。１月２７日には明治神宮で土俵入りも披露し、今後の活躍が大いに期待されます。

「天才は生まれつきです。もうなれません。努力です。努力で天才に勝ちます」中学校の卒業文集にこのように書いた新横綱が、母校の茨城県龍ヶ崎市立長山中学校で講演をしたときに後輩の中学生に次のように話しています。「応用をたくさんやると、目の前が見えなくなり、基本を忘れてしまうことが多い。相撲の基本である四股、すり足、てっぽうをしっかりやると体幹が鍛えられ、押されても前に行っても残せる。」新横綱は、腐らず、我慢してこれらの基礎・基本を繰り返し、黙々と取り組む中で優勝と横綱を手にしたのでしょう。このニュースの中で、私が特に感心したのが、横綱昇進後のお父さまの言葉です。

「さて、これからが大変です。今まで以上に稽古をこなし、自分を律し、より勉強して名実ともに誰からも模範になるような立派な人間になるよう努力しなければなりません。そういった意味で『おめでとう』と言うよりはこれからはなお一層頑張らなきゃいけないと思うと『気の毒』になったというのが本音です。」父親の厳しさと深い愛情が感じられる言葉だと思います。

この新横綱のように、生徒たちが何事にも諦めずに、自分で決めたことを継続して最後まで実行できるような人間に育ってほしいと願っています。まさしく、３学期も「鬼は外、福は内」の思いを抱いて、子どもたちの願いに沿って、保護者や地域の皆様と共に、安心・安全な学校づくりに努力を重ねてまいります。

今年度も残り２か月間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

安全点検の結果、異常はありませんでした。